

恵泉デー「たくさんの人に支えられて」

恵泉デー委員長 5年 Y.I

私は恵泉デー委員長に就任してから、理想像と自分とのギャップに何度も苦しみました。全てを計画通りに進め、他人の意見も聞きながら、委員長としての仕事も実行委員としての仕事もクラスの恵泉デー委員としての仕事もそつなくこなすというのが私にとっての恵泉デー委員長の理想像でした。しかし要領の悪い私にそんな余裕などある訳もなく、自らが描いた理想によって自分自身が追い詰められることになってしまいました。全てを一人でうまくこなそうと無理をしてどれも中途半端になってしまい、他人に迷惑をかけることがたくさんありました。そして、他人に迷惑をかけるほどに孤独を感じて、そのせいで、他人に頼ることがまた更に難しくなっていました。

このようにして自分で自分を追い詰めてしまっていた時期に、この苦しきから抜け出すヒントがどこかにあるかもしれないと思い、昨年度の恵泉デー委員長さんが引き継ぎの時にくださったファイルを久しぶりに開いてみました。何十枚ものプリントや書類を、全て改めて読み返しました。その中に、私を大きく変えてくれたものがありました。それは、昨年度の委員長さんがちょうどこの礼拝でお読みになった感話です。そこには、「迷惑だから、とか、忙しいのに大変だから、と同輩の実行委員に遠慮して自分の思いを伝えずにいた」とありました。この文章とその時の私の状況は重なりました。そして、私は、勝手に一人で抱え込んで自ら孤立しているだけなのだということに気づきました。他人に頼ることは必要不可欠であるということがここでようやくわかったのです。

そこで、私は無理にあがくのをやめて、他の実行委員にもっとたくさん頼れるようになりました。他人に迷惑をかけるのは良いことではありませんが、この人たちになら迷惑をかけてもいいかなと思えるくらいに実行委員の同輩・後輩は頼りになりました。実際、私は実行委員のみんなに数え切れないほどの迷惑をかけました。しかし、その度に彼女たちへの信頼は強まり、かけがえのない存在になっていくばかりでした。そんな最高な人たちに支えられて、無事に恵泉デー当日を迎えることができました。恵泉デー当日も全てが計画通りに進んだわけではなかったですが、実行委員という仲間の心強い存在のおかげで、なんとか最後までやりきることができました。

ここまで主に実行委員の話をしてきましたが、私が委員長として仕事をしていく上で必要不可欠だった大切な存在は他にもあります。

まず、部活動の同輩たちです。他の実行委員たちは各々のクラブを休部している中、私の所属するサッカークラブの同輩たちは、私が恵泉デー委員長と部活動を両立したいことを理解し、精神面で私を大いに支えてくれました。私が特に嬉しかったのは、彼女たちが私に変に気を遣いすぎなかったところです。部活動以外の関わりの時には手紙をくれたりメッセージを送ってくれたりして、たくさん応援してくれました。しかし試合のことなどが関わると、委員会のことは切り離してきっぱり

と、一部員として同等に扱ってくれました。また、週に一度くらいしかクラブ活動に出られなくなった9月あたりから、他の同輩はいつも部活のことを考え努力をしているのに、そのような5年生としての務めを果たせない自分を嫌悪するようになりました。そんな私を見て、ある同輩が「周りの人をうまく使って、全てを背負いすぎずに頑張るってね。息抜き程度に部活にも遊びに来てね。」という言葉をかけてくれました。本人はこの言葉を何気なく伝えただけなのかもしれませんが、その時の私にはそれまでに様々な人からもらってきたどんな長い文章よりも、更に重く心に響きました。その後もこの言葉は私を支えてくれました。そして、恵泉デーを無事に終わらせることこそ、部活動を何度も欠席してきた唯一の意味になるのだと自覚し、特に恵泉デー直前は委員長としての役目に専念することができました。恵泉デー後にももらったアルバムに寄せられたサッカー部同輩からのメッセージを読んで、心の底から感謝の念が溢れました。彼女たちは、恵泉デーを作る上で直接的に一緒に仕事をする仲間ではなかったけれど、私の精神面においてはともに恵泉デーを作り上げてきた大切な仲間でした。

次に、恵泉デー委員会顧問の先生方です。先生方が私をご指導くださったり、私が気のつかないような細かいところまで指摘なさる度に、正直に言うと、そこまでしなくともと思っていました。しかし、私を時ある毎に指導してくださったのは、私のことを見捨てずに一人前に扱ってくれていたからこそのことだと恵泉デーが終わってやっとわかりました。また、細かいところまでご指摘いただいたのも、先生方が私たちと一緒に恵泉デーをより良いものにしようと本気で思っていたからだと、今になってわかりました。何度迷惑をかけてしまっても私を諦めなかった顧問の先生方は、恵泉デーを迎える上で大きな存在でした。

他にも、大変な時に寄り添ってくれた友達、応援してくれた人たち、昨年までの委員長さんなど、私の大きな支えとなった人たちはたくさんいます。迷惑をかけながらも、たくさんのミスをしながらも、様々な人たちの存在に支えられながら何とか11月3日を終わることができました。

思い通りにいかないことや辛いことばかりだったけれど、恵泉デー後にたくさんの方々からいただいた「委員長お疲れ様」とか「今年の恵泉デーは本当に楽しかった」の声を聞き、私や実行委員や各クラスの恵泉デー委員の努力は決して無駄なものではなかったのだと噛み締めました。また、もともとは実行委員になりたかった訳ではない後輩に「来年も実行委員やるの?」と尋ねると「なれるならやりたいです。」という答えがすぐに返ってきた時、ある同輩に私の胸の内にだけとどめておきたいくらい嬉しい言葉をかけてもらった時、恵泉デー委員の後輩がわざわざ私に感謝を伝えてくれた時、そしてなにより、恵泉デーを楽しそうに過ごしていた人たちを見た時に、恵泉デー委員長をやって本当に良かったなと思いました。

今年の恵泉デーを楽しんでいただけなら、それは、実行委員のみんな・恵泉デー委員会の顧問の先生方・各クラス恵泉デー委員・委員長である私の精神的サポートをしてくれた友人たち、そして恵泉デーに携わってくださった恵泉会・恵泉会友の会・同窓会の方々や在校生一人一人のおかげです。また、今年の恵

泉デーが充実したものでなかったと思ったのなら、ぜひ来年度恵泉デー委員になって、更に良い恵泉デーを作る力になってください。

孤立感にさいなまれても、本当に自分は孤立しているかどうかもう一度考え直して見てください。周りからの支えに気付いていないだけかもしれません。自分の努力を誰も見ていない、評価してくれないと感じても、努力し続けてください。その辛抱は自分の強みになります。

委員長としてたくさんの貴重な経験をさせていただき、まだまだ至らない点の多いままですが、成長することができました。ありがとうございました。

今年度の反省を生かし、来年度も様々な人の支えのもとで、より良い恵泉デーが作り上げられますように。